

DoKoネット



同窓会活性化 副会長挨拶

東城 哲朗 同志社大学理工学部同窓会 副会長

理工学部近況報告

辻 幹男 同志社大学理工学部長、同志社大学理工学部大学院 理工学研究科長
同志社理工学会会長

特集「人間のための科学技術を求めて」—同志社大学理工学部の70年—
刊行のお知らせ 加藤 利次 理工学部70年史編集委員会 委員長
理工学部電気工学科 教授

同窓会開催報告・同窓会開催案内

What's New!

2015年春には京田辺キャンパスに大学の礼拝堂ができます

同窓会活動・リユニオン

同窓会の愛称公募・2012年度同窓会委員からのメッセージ

同窓会活性化

本年三月に理工学部および大学院を修了される皆様、ご卒業おめでとうございます。同時に同窓会へのご加入を心より歓迎致します。

アベノミクスの評価は金融、財政、成長戦略それぞれにつきABEと言われています。株高・円安も続きデフレ脱却の足がかりは掴みつつあるようですが肝心の成長戦略はアジア、アフリカ諸国等との経済圏確立の話が先走りして、TPP交渉、震災復興、原発など問題は山積されています。各企業もまた成長を望み、新規事業開発に取り組んでいる最中です。このような環境に皆さんは社会人となられ、それぞれの道を進まれる事になります。今までは、先生からのご指導、インターネット上の情報、文献、友人との情報交換などにより問題を解決してこられたと存じますが、会社に入るとそうは簡単に行かなくなります。早晚、どうすれば、問題解決に有効な動きが出来るのだろうかという命題にぶつかり、苦勞される事になります。採算性、利益規模は重要ですが、それにとられすぎると、何をしても上手く行くようには思えず、総てが中途半端になってしまい、気が付いたら何も出来ていないという結果に成ることが往々にして出てきます。1)動かそうとする対象の実践に基づいた味見。(経験者の意見は重要です。)2)新規性存在の確信。これらが有れば腹を決めてやってみる事です。ただし、物事を進めるためにはアイデア、展開力、根性が必要であるということと言うまでもありません。

同窓会活動もこれに似たところがあります。どうすれば同窓会が活性化するか？会員数が増えるに従い会員相互のidentityは希薄になり、入力のパワーを上げててもなかなか期待される作用は現れてきにくくなります。大切な事は、会員の皆様のご参画とご支援を戴くためには何をしたら良いかということと同窓会運営側から直接、間接を問わず積極的に会員の皆様に何うアクションが重要であると存じます。具体的にはインタビュー、アンケート調査等とその解析および結果の確実な同窓会活動への反映が必要であると存じます。

本年は同志社工業専門学校開校70周年、来年はハリス理化学学校開校125周年を迎えることになる、おめでたい節目の年になります。現理工学部は全学部学科の研究室および施設が素晴らしい京田辺キャンパスに整然と配置され、有力な教授陣と学生諸君が今後の研究成果の深化を望むための体制は整ったものと思われまふ。大河ドラマ「八重の桜」の追い風にも恵まれ、飛び立とうとすればいつでも空高く舞い上がることが可能な良い状況の下、理工学部同窓会も会員の皆様のご協力でご更なる発展を、成し遂げて行く再出発の年にしたいと存じます。一層のご支援およびご指導を戴きますよう宜しくお願い申し上げます。

末筆になりますが、本年の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

理工学部近況報告

昨年の一年間、学会や研究会等で他大学の先生に必ず言われたことは、「同志社はいいですね。テレビで広報してもらって。」でした。NHK大河ドラマ「八重の桜」効果があったのか、なかったのかは分かりませんが、18歳人口が減少傾向にある中、2014年度一般入学試験の志願者は大学全体で昨年度比の3.1%、理工学部で3.7%増の9982人となりました。今後ますます大学進学希望者数が減るなか、志願者数を適正に維持していくためには大学が発信する広報のみならず、同窓生の皆様方の御力添えも必要と感じております。

各大学でのグローバル化に向けての大学改革の話題が新聞紙上を賑わせておりますが、昨年のDoKoネットでも書かせていただいたように、同志社大学は日本人学生の海外留学を促進する「グローバル人材育成推進事業」(全学推進型)に昨年度採択されました。理工学部でも短期、中期、長期留学のさまざまなプログラムを新たに構築し、学生の海外派遣を積極的に進めようとしております。これらの実施には同窓生の皆様のご助力を必要とする場合が多々あるかと思っておりますが、御協力の程、よろしく御願い申し上げます。

1944年に工業専門学校として発足以来、本年で設立70周年を迎えるにあたり企画した70年史を3月の卒業式に本年度の卒業生、修了生に配布いたします。同窓生として理工学部の歴史を知ってもらいたい機会ですので是非一読していただきたいと思っております。工学部設立間もない頃は同志社大学に工学部があることさえ知らない会社がほとんどであり、ましてや卒業生を大企業に採用してもらうというのは並大抵のことではなかったようです。そこで当時の工学部の先生方は何年もかけて何度も大企業へ赴き、頭を下げて優秀な学生がいるから一度でいいから1人採用してみたいと頼んで回られたそうです。その熱意で会社も試しに1人採ってみようかということになり、卒業生の入社後の頑張りが認められ、以後採用が続いて今日に至っています。このように今日の理工学部の姿は設立当時の先生方の同志社をよくしていきたいという熱い思いと同窓生の皆様方の努力で積み上げられてきたものであり、卒業、修了して社会に巣立つ皆さんも、自らの力だけでなく、先輩の努力のおかげもあることをかみしめて、大いに活躍されることを期待しています。

最後になりますが、3月に理工学会長を退任いたします。4年間、皆様方には理工学会ならびに同窓会の活動におきまして色々とお世話になりますとともに、御協力いただいたことを感謝申し上げます。誠に、有難うございました。



同志社大学理工学部同窓会
副会長

東城 哲朗

昭和51(1976)年 工業化学科卒
昭和58(1983)年 大学院(後期課程)修了
東洋炭素(株)顧問



同志社大学理工学部長
同志社大学理工学部大学院 理工
学研究科長
同志社理工学会会長

辻 幹男

昭和51(1976)年 電子工学科卒
昭和56(1981)年 大学院(後期課程)修了

「人間のための科学技術を求めて」 —同志社大学理工学部70年— 刊行のお知らせ

理工学部70年史編集委員会 委員長

加藤 利次 (理工学部電気工学科教授)

3年がかりで制作に励んでおりました、同志社工業専門学校・工学部・理工学部70年史『人間のための科学技術を求めて 同志社大学理工学部70年』の刊行をご報告いたします。

制作にあたりましては、卒業生の皆様より多数のご寄稿を賜り、また、貴重な在学当時の写真、卒業アルバム、講義ノートなどをご提供いただきました。ここに編集委員を代表いたしまして、厚く御礼を申し上げます。ご提供いただきました写真に関しましては、デジタルスキャンをして、来る100年史にも使用できるように保存をいたしております。

出来上がりしました記念誌は、A4判カラーで300ページ、理工学部、理工会、理工学部同窓会の共同発行になりました。本文は4部構成とし、第1部「写真で綴る70年」、第2部「同志社工業専門学校・同志社大学工学部・理工学部の70年」、第3部「理工学部の今、そして未来」、そして第4部「資料編」としています。内容を簡単に紹介しますと、

第1部では、今出川、京田辺両キャンパスの現在の様子を、工学部OBでもある写真家のアルカダッシュ宇佐美宏氏の美しい撮影写真で楽しんでいただけ、さらに卒業生の皆様から提供していただいた写真で、当時の様子を思い出していただけることと存じます。

第2部では「同志社大学理工学部概史」として、先ず理工学教育の源流として、日本初のアメリカの大学から認められた理学士であった新島襄の理工学に対する思いを、次いでその遺志をついだ1890年に開校されたハリス理化学校の経緯と下村孝太郎、名前を理科と変えたハリス理科学校の再興の動きとして太平洋戦争中に設立された同志社工業専門学校、また戦後新制大学として開設された同志社大学工学部、そして2008年には理工学部として新スタートという大きな流れを、当時の社会情勢とも併せて記し、多くの先達のご苦勞が偲ばれるものとなりました。

理化学校卒業生の加藤與五郎先生により軽井沢にて始められた創造科学教育の今後について、さらに、「歴代校長・学部長に聞く」の章では、工業専門学校の初代校長牧野虎次先生、初代工学部長小山熊治郎先生から歴代の学部長先生25名全員のインタビューやご寄稿、過去の印刷物からの文章を転載収録により、読み物としても面白く読んでいただけることと思います。

さらに第2部の「各学科設立の経緯」において、当時を知る先生方から直接取材して、生き生きとした読み物になっていると自負しております。

第3部では、現在の理工学部について、若手教員の皆さん、現役学生の皆さんの座談会に加え、現在活動中の全63研究室の紹介をしております。

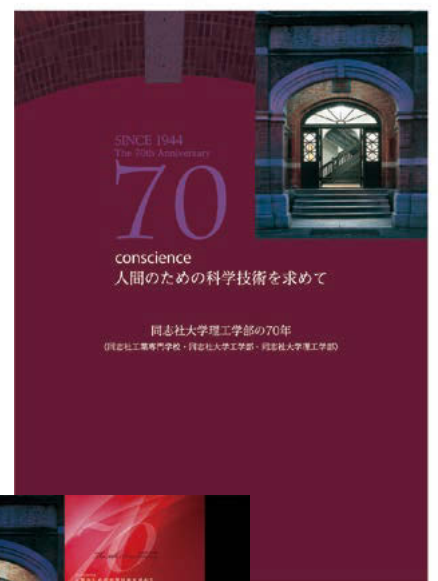
第4部「資料編」におきましては、年表やさまざまな講演会の記録、研究発表会の記録、歴代教員名簿のほか、卒業生数の変遷、とりわけ卒業生の皆様に喜んでいただけるのは、「研究室の変遷」一覧表です。時代の流れや科学技術の進歩により、学科や研究室の名称も変わって行き、自分の所属している研究室はいまどのようになっているのだろうかと思われる卒業生の方々も多くおられると思いますが、この一覧表を見ていただければ、つぶさに分かっていたいただけることと思います。

非常に盛りだくさんの内容で、卒業生のみならず楽しんで読んでいただけるものとなりました。多くの皆様のお申し込みをお待ちしております。

印刷は冊子版として2,000部、電子ブックとしてCD版5,000部作成いたしました。電子ブックの中には、冊子のデータのみならず、昨年11月の2013年度リユニオンで行われました理工学部同窓会講演会「洋学者としての新島襄と山本覚・八重兄妹」(講師:大越哲仁先生 同志社社史資料センター第一部門研究員)の講演資料と動画も収めております。

■70年史の入手方法について■

同志社理工会のご好意で、同窓会の活性化にも活用させていただき事となり、同窓会費を納入された方で70年史を希望される方全員に、冊子またはCDを配布させていただき事になりました。同窓会報DoKoネット第19号送付の際に同封の同窓会会費振込用紙に、その旨をご記入ください。あるいは、別途、メール、FAX、郵送でもお申し込みいただけますので、①70年史希望、②郵便番号・住所、③氏名(フリガナ)、④電話番号、⑤卒業年、⑥卒業学科をご記入のうえ、同窓会事務局迄ご連絡下さい。ただし、冊子ご希望の方が多く場合には、電子ブック(CD)をお送りさせていただき事をご了承下さい。また、お手元に届くまで、時間がかかる場合もありますので、ご了承ください。



冊子版表紙写真



CD版トップ画面

50周年記念愛友会(S38工業化学科卒同窓会)報告

布施 博

昨年のホームカミングディ前日の11月9日(土)、卒業50周年を記念して愛友会を開催しました。50年ぶりの再会もありました。この50年、なんと早く過ぎ去ったことか。「同窓とはなんと楽しきもの、一層の交流を深め、これからも元気でいこう」と盛り上がりました。当日の状況は下記の通り。

1. PM1:00~4:30 今出川・烏丸・新町キャンパス見学後に御所内の「禁門の政変跡」を散策し、新島会館へ。参加者14名。

ハリス理化学館前集合し、理化学館へ入ってすぐの所にあった掲示板に「氏名を貼り出された」思い出を語る友あり。なんとも、ハリス理化学館は我々の学び舎、学生のときの心の故郷です。新館「良心館」2階のクリエイティブ・コモンズでは、土曜日ではあったが、パーティションの殆どない開放的空間でグループ学習があちこちで行われているのを見て「おいらもこんな環境だったら雀荘に行かずにもっと勉強したのに?」という友あり。御所内では、容保公が御所の守護に当たったときに仮本陣とした「凝華洞跡」前で集合写真を撮る。

2. PM5:00~8:30 愛友会本会 新島会館。参加者32名。

一卓8名の4卓に別れて着席。物故者20名のご冥福を祈り黙祷。各自の近況報告、歓談、Doshisha College Songで締め。

3. PM9:00~10:00 二次会はCarottesにて。参加者11名。

外房、安曇野、舞鶴からの3人と阪神間在住の8人。「ビリヤードゴルフ」への勧誘など、いつもと異なる話題での交流もあり、遊びの方はなかなか達者な連中であつた。

◎「愛友会回顧録(仮題)」発行についてのお知らせ

50周年を記念して、これまでの記録をまとめ「愛友会回顧録」を発行すべく準備に入ります。会友の皆様へ、お願いすることが出てくると思います、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



2013年度比叡会開催報告

東城 哲朗

1978年に同志社大学工学部工業化学科(現、理工学部機能分子工学科)電気化学研究室の同窓会である比叡会が設立されました。当時は今出川校地の扶桑館4Fの角に研究室が有り、窓越し真正面に相国寺を通して比叡山が望め、休憩時にはコーヒー片手に優美な景色を楽しみながら皆で日々の研究の議論を行っていました。電気化学反応は電極表面で生じるため、それは面における2次元反応で生成物濃度の増加には時間が掛かります。速度論的研究は電気化学的測定だけではなく生成物濃度のtime courseを追跡せねばならずほぼ全員が徹夜実験と言う事もしばしば有りました。卒論、修論を仕上げる10月以降はこの傾向が強まり、この時間共有の中から、どうしても同窓会を作りたいと言う意見が出て、あつという間に全員の共通意見と成り、たまたま博士課程で年かきの私が同窓会の責任者に祭り上げてしまわれました。会の命名も「比叡会」に決まりました。1978年の第1回比叡会は、紅葉に燃える高尾の旅館にて1泊2日で行われました。卒業生ほぼ全員の参加で懇親の実は多いに上がりましたが、すこし騒ぎ過ぎ、旅館の女将から優しくクレームを戴いたのを懐かしく思い出します。

本会は、早、36年の歴史を持つに至り、その間に指導教授は山下正通先生、田坂明政先生から稲葉稔先生と3代に亘っています。世代交代のたびに無くなって行く同窓会が多いのですが、当会は先生方の特別の配慮を戴いており上手く継続されていることに感謝致しております。会員数も500名を超え、毎年秋、京都で開催されており、昨年は同志社Home Coming Day前日の11月9日(土)に49名の参加者を得て盛大に開催されました。

その内容を簡単に説明致します。第1部は田辺校地(知真館2号館)において講演会を開催致しました。川辺 勝治氏(1980年卒)による「“やる気”を育てる学校教育の在り方」、松木平伸一氏(1982年卒)による「PEARL SEMINAR 日本が誇れる宝石「真珠」の話」そして明本齊氏(M2)による「現在の研究テーマ全容」の話が有りました。OBからの話は、各人の仕事において苦労した内容を含む体験談で、その迫りに現役学生も多いに感じるどころが有ったものと推察されます。現役院生による研究の全容説明に、OBは電気化学の発展を体感したものと確信します。活発な質疑応答の中、卒業生より現役生への激励の言葉で会場は盛り上がりました。



第2部は現役院生の案内による電気化学研究室(至心館3F)見学会でした。実験装置の充実ぶりもさることながら目を輝かせて懸命に説明する院生を見て、先生と現役の研究に対する決意の深さを垣間見ることが出来、OBとして誇らしい気持ちに成りました。

第3部は夕刻から市内富小路錦小路下ルの「ト一」において開催された懇親会です。稲葉先生、田坂先生も参加され、恒例の近況を含む全員自己紹介で笑いが絶えず、和やかな内にもお互いの情報交換をした、大変有益で楽しい時間を過ごせました。今後も本会は確りと活動を続けますので、比叡会会員の皆様、宜しくお願ひ申し上げます。

同化57会第18回同窓会記録

平岡 登

同化57会第18回同窓会は、去る2013年11月12日京都タワーホテル「ナボリの間」において開催された。1957年工業化学科卒業生55名により発足したが、現在の名簿に住所記載の人数は35名である。57(ゴーナナ)会の名称は卒業年次1957の末尾二桁を用いて名付けられた。卒業後24年を経た1981年に第1回の同窓会が行われ、2002年第7回開催に至るまでは不定期に開催

されていたが、この席上で今後毎年の開催が提案、賛同された。この開催記録はDoKoネット誌第5号に投稿、掲載された。その後は途切れることなく毎年開かれ、今回の18回開催を達成した。近畿地域での開催が主であるが、過去には広島(宮島)、福山(鞆の浦)などでも行われた。過っては恩師にはその都度ご出席をお願いしご都合の許す限り御出席いただいていた。

なお、恩師原正名誉教授はお元気でいらっしゃいますが、このところはお高齢の事もあってご出席のお願いは遠慮させていただいております。今回の参加者は一組の夫妻参加者を含めて13名であった。そのうち広島より参加の竹野哲雄君は栄誉ある18回全参加を達成しました。冒頭に物故者への黙祷を捧げ、次いで級友山下正通名誉教授より最近の同志社及び理工学部の紹介があった。乾杯の後、2時間あまりの会食談笑した。その中での話題の一つを紹介する。長谷部(旧姓・田中)閑さんは大学「くらま画会」のOGであり、本年は同会創設100周年に当たり、ご尊父(田中良一氏)は創設者の一人でした。この度、その会の歴史に係わる資料を所蔵していたため、それらを整理して、同志社社史資料センターに寄贈されたところ、学生による各サークル活動についての資料は非常に少なく其の価値を高く評価されたことの報告があった。宴会の終盤、今後の57会存続について話し合い、開催毎に、会終了時には必ず次年度の開催月日、場所、世話人を決める事によって継続を図る事となった。

今回は2014年11月11日京都タワーホテルにて、世話役として中辻治彦君の承諾を得て開催予定である。今回の参加者は80歳前後の元気者の集まりで、和やかな雰囲気の中にも活気溢れた意見が飛び交う中、次回の再会を約して散会した。

この度の会を終えての私の感想は、大学を卒業してから、同窓会で再会しますと、未だに、現役を続けている方も居りますが、夫々の分野で懸命に現役時代を過して来た同期の、何気ない談笑の中にその片鱗を聞く事が出来るのは楽しいものです。同窓会は、大いに飲食し、大いに談笑してお互いの情報交換、切磋琢磨の場とし毎年とまでは言いませんが、事情の許す限り出来るだけ頻繁に開いて、同志社で育まれた絆を互いに大切に人生を享受していくのが良いのではないかと考えております。



復活 新葉会

大枝 正人

機械学科新井ゼミには当時「新葉会」という名称の同窓会がありました。新井先生が、卒業後もゼミの卒業生同士の縦横のつながりをもっておくことの重要性を説かれて発足した会でした。現役の頃には、「新葉会」を通じて、先輩の会社で実験のご協力をしてもらったりしていました。卒業後も、同窓会開催も何度かあったのですが、いつの間にかタチ切れとなり現在に至っています。新井ゼミを継承して下さった青山栄一教授と、当時の劣等生(小生、一瀬君、西埜君)が相談し、とりあえず、私たちの年代の人にお声がけしました。郵送とメールでご案内を送ったところ、多くの方々から、懐かしいお便りを頂戴しました。定年間際の年代ですので、皆さん第二の人生をどのようにエンジョイするか、と試行錯誤されている様子が垣間見えました。

当日は、残念ながら全員出席とはいきませんでした。21名が集まってくれました。40年ぶりの再会であり、かつ、学部卒業生にとっては、1年違いでも面識がないので、最初は、皆さん緊張の様子でしたが、本家「とり初」の美味しい料理とお酒が進むにつれて、和気藹々、楽しいひと時を過ごすことができました。ただ単に懐かしいというだけでなく、ビジネスのお話も飛び出し、定年間近になってからの開催でなく、もっと若い時期にやりたかった、とのお声もありました。

まずは再会を喜ぶと共に、定期的集まること、また、新葉会のfacebookを立ち上げることを約束して閉会となりました。なお、当日参加できなかった方にも、次回は是非ともご参加頂きますこと、facebookにもご参加頂きますようお願いいたします。



卒業生の皆さんにお伝えしたいことは、社会人になると日頃のお仕事に没頭して、学生時代の友人との交流も日が経つにつれて疎遠になってくるものですが、たまには、学生時代の友人と会って情報交換することが、ビジネスにも人生にも大いにプラスになるということです。そのためには、お世話役が大切ですので、今のうちにお世話をしてくださる方を確保されてはどうでしょうか。

現在、同窓会のお世話役として、「同窓会委員」を登録するようになっていきますが、こうした仕組みをうまく利用して、末永く交流が続くことを祈っています。

同窓会開催案内

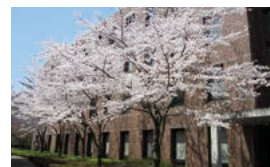
1964(昭和39)年同志社大学電気工学科卒業生同期会 卒業50周年記念花見同期会開催

日 程：平成26年4月3日(木) 13時集合、4日(金) 9時解散
集合場所：同志社大学 京田辺キャンパス 有徳館西館
宿泊場所：エクシブ京都八瀬離宮

電気工学科1964年度卒業生は約120名、卒業後20周年の時に第1回同期会を開催し、以後5年ごとに同期会をもち、2014年は5N同窓会の第7回目となる50周年記念同期会をエクシブ京都八瀬離宮にて4月3日から一泊で開催します。同期生ご参加下さい。

世話人代表：石原好之(宇治市伊勢田町名木1-1-215.yishihar@mail.doshisha.ac.jp)

それ以外にも、平成6(1994)年の卒業30周年記念同期会が京田辺キャンパスへの工学部統合移転の年で、ソメイヨシノの桜を2本京田辺キャンパスに植樹し、その後毎年4月に京都近隣の同期生がお花見会をしており、今回は同期会と花見会のドッキングです。さらに、東京近辺の同期生はDE39会と称して毎年12月に忘年会を毎年開催しています。2013年の集まりの写真を示します。



What's New!

2015年春には京田辺キャンパスに大学の礼拝堂ができます

1986年に田辺校地が開校し女子大学、国際中学高等学校、大学が集まり、1988年の9月に新島記念講堂が女子大学のキャンパスに三つの学校の共通施設として同志社創立110周年記念の募金により設立されました。大学はキリスト教主義教育を基本に教育を進める中で、京田辺キャンパス内の身近に礼拝堂をと言う声を反映して、幾度か計画がなされましたが、実行には至りませんでした。キリスト教文化センターの行事である京田辺キャンパスでのチャペルアワーは知真館の教室やラーネッド記念図書館と夢告館前の芝生の中に作られた青空チャペルが用いられてきました。この度ついに大学は京田辺キャンパス内に礼拝堂を作る事になりました。

「京田辺キャンパス礼拝堂および関連施設設計提案競技」の国際コンペを行い最終審査会が2013年2月3日に開催され、「ファセット・スタジオ」チームの柏木由人氏の設計案が、最優秀作品賞を獲得しました。応募作品379点（国内358点、海外21点）の中から選ばれた最優秀作品賞を基本として、礼拝堂と宗教施設（礼拝堂及び附属施設）が建設されます。建設場所は夢告館と香柏館高層棟との間に現在ある通路を挟んで建設され、現在のキリスト教文化センター棟の南側で、ラーネッド記念図書館前広場の北側になります。現在建物外観パースを作成中ですが、内部の様子が入手できましたのでお知らせします。

チャペル・アワーなどキリスト教の諸活動をはじめ、日常的に講演会や学生団体の成果発表など、多様な用途で活用され、京田辺キャンパスにおけるキリスト教主義教育を象徴し、学生や卒業生、教職員等から100年の後にも愛され続ける建物となることが期待されています。（写真：施設課提供）

<http://www.doshisha.ac.jp/news/2013/0207/news-detail-633.html>

<http://www.kensetsunews.com/?p=6775>

同窓会活動・リユニオン

同志社大学理工学部同窓会の愛称の公募をいたします

同窓会の近況報告：

同志社大学理工学部同窓会は、1994年に同志社工学会より分離発足し、卒業生会員相互の親睦を第一の目的とし、同窓会と同志社大学理工学部双方の発展に貢献する事業を積極的に実行しようとしています。大学の校友会もDoKoネット18号でお知らせしましたように各地方支部と各学部同窓会との結びつきを深められ、2014年2月15日には国立京都国際会館で第1回同志社校友会大懇親会The First Grand Reunionを2,200人の参加を得て開かれました。

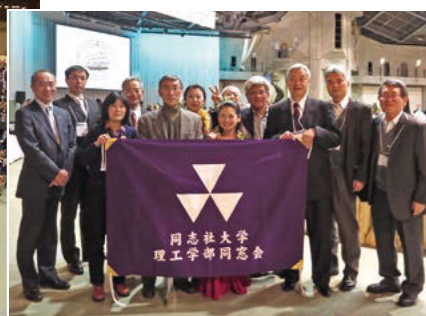
<http://www.doshisha-alumni.gr.jp/information/news.html#/detail/804960425071173728>

第1部基調講演では同志社大学村田晃嗣学長が「同志社大学は京都にあり、首都圏以外の観点で考えられる人を育てる」など、大学の運営理念を講演され、第2部パネルディスカッションでは「みんなで考えよう同志社ブランドの向上と戦略」と題し、公認会計士の長谷川正治校友会副会長をコーディネーターとして、井上礼之校友会会長（ダイキン工業(株)会長）、小嶋淳司校友会副会長（がんこフードサービス(株)会長）、木村昌平校友会副会長（セコム(株)相談役）、村田学長を加え、約70分に亘る熱い議論が繰り広げられました。第3部で写真のようにイベントホールいっぱいに集まった同窓生で懇親会がもたれました（写真：校友会提供）。会場奥の舞台左に用意された理工学部同窓会のテーブルには理工学部同窓会の橋詰会長、東城、篠木両副会長を始め、幹事会メンバーが参加し、理工学部同窓会会員の方々もテーブルに集合されました。

同志社校友会や各学部の卒業生団体（同経会・政法会・樹徳会・心理学会同窓部会）との交流も深まるなか、これらの卒業生団体は会旗および同経会（経済学部同窓会）、政法会（法学部同窓会）、樹徳会（商学部同窓会）と命名されています。



理工学部同窓会でも2014年で工学会から同窓会組織として独立20周年を迎えるにあたり、会員の皆様に親しみを持っていただけるよう、会旗を作成致しました。会旗は樹徳会様よりご紹介いただいた創業1905年の金沢市の奥田染色(株)へお願い



しました。第1回同志社校友会大懇親会にて会旗を中心に参加者と記念写真を撮りました。

そして、この機会に下記の要綱で同窓会の愛称を募集することになりました。同窓会会費振込用紙をご利用になり、素晴



らしい愛称をご応募下さいますようお願い申し上げます。なお、振込用紙を同封していない方につきましては、メール・FAX・郵送にて応募下さいますよう、お願いいたします。

- 募集締切：2014年5月6日（火・祝日） ※当日消印有効
- 募集内容：同志社大学理工学部同窓会の愛称を募集します。
- 発 表：2014年度の総会（2014年11月1日（土））を予定しています。
- 応募資格：本会会員
- 応募方法：振込用紙の備考に「同志社大学理工学部同窓会」の愛称（フリガナ）を記入。別途、メール、FAX、郵送でも可能です。その際は、①名称（フリガナ）、②郵便番号・住所、③氏名（フリガナ）、④電話番号、⑤卒業年、⑥卒業学科をご記入のうえ、お送りください。
※採用愛称に複数人の応募があった場合は抽選により決定させていただきます。
- 選考方法：皆様からいただいた案をもとに、幹事会にて決定させていただきます。
- 賞 品：採用者に記念品（同志社グッズなど）を贈呈します。
- お問合わせ先：〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学理工部同窓会事務局
Tel：0774-65-6219 Fax：0774-65-6850 E-mail：dkk@mail.doshisha.ac.jp
なお、個人情報に関しては、本件以外の用途では使用いたしません。

政法会様と樹徳会様からご意見を頂きました

「同志社大学政法会」という名称について

会の名称を決める際、その名称について、学内外で使用されているかどうかを特に調査したことはない。ご存知のように、「政法会」の名称は法学部の前身である「同志社政法学校」（1924年）に起因している。正式名称は「同志社大学政法会」で、「冒頭には『同志社大学』と冠しております」ので、同志社大学外の他の団体の使用については意識していない。

「同志社大学樹徳会」という名称について

高商時代使用時の建物名称「徳照館」から同窓会名を徳照会としており、岩倉に移転し、新校舎名が「樹徳館」となり、同窓会名を樹徳会とした。新制大学となったが、高商卒業生が主体となり運営されていた。昭和22年商学部となり、今出川校地に戻り校舎は至誠館となったが、高商OBばかりだったため、名称は樹徳会を引き続き使用している。学部卒の理事の割合が多くなり、昭和53年理事会と総会にて、商学部樹徳会が正式名称として承認された。

同窓会活動・リユニオン

2013年度 理工学部同窓会 総会・リユニオン報告

日程：2013年11月10日(日) 場所：今出川キャンパス

<卒業生レセプション> 12:30~13:45 寒梅館1階 特設会場

<総会> 参加者：約37名 14:00~14:40 良心館1階 103教室

同窓会会長挨拶 橋詰 源治

理工学部長・理工学研究科長挨拶 辻 幹男

- 【議事】
1. 2012年度事業報告…全員一致で承認。
 2. 2012年度会計報告…全員一致で承認。
 3. 2013年度事業計画および予算…全員一致で承認。
 4. 会則改正…同窓会委員の会則追加, 大学院の名称変更に合わせて会則変更, 全員一致で承認。
 5. 次期役員…全員一致で承認。

<講演会> 参加者：162名 15:00~16:10 良心館1階 103教室

講師：大越哲仁先生 公益財団法人蘇峰会理事・日本ペンクラブ会員・同志社社史資料センター第1部門研究会員

演題：『洋学者としての新島襄と山本覚馬・八重兄妹 ~新島の大学設立運動から理工学部へ~』



2014年度 理工学部同窓会 総会・リユニオン

日時：2014年11月1日(土) 場所：京田辺キャンパス(京田辺祭と同日開催)

同期会や同窓会を企画いただく場合、お世話役の方より事務局へご連絡いただきますと、宛名シール印刷などのお手伝いいたします。

人事(理工学部)

新任 (2014年度に新たに着任される教員)

〔電気工学科〕 江本 顕雄(えもと あきら)任期付准教授(2014.4.1~2019.3.31)

〔エネルギー機械工学科〕伊藤 彰人(いとう あきひと)准教授(2013.4.1)

お悔やみ (2013年度中に永眠された教員)

竹村 英昭 実験講師 2014.1.7 永眠(71歳)

吉川 進三 名誉教授 2014.2.1 永眠(83歳)

退職 (2013年度末で退職される教員)

〔電気工学科〕 雨谷 昭弘(あめたに あきひろ)教授 定年(2014.3.31)

〔エネルギー機械工学科〕小泉 孝之(こいずみ たかゆき)教授 定年(2014.3.31)

〔機能分子・生命化学科〕加納 航治(かのう こうじ)教授 定年(2014.3.31)

〔数理システム学科〕 三井 斌友(みつゐ たけとも)教授 定年(2014.3.31)

2012年度同窓会委員からのメッセージ

本会では、学部を卒業され本会会員となられた皆様には、卒業後も同期会やゼミOB会のお世話や本会の総会・リユニオンなどの同窓会活動に積極的にご参加いただきたいとの考えからゼミ(研究室)ごとに同窓会委員を選出いただいております。

今回初めての試みとして、今年度大学院を修了され、社会に出られる同窓会委員よりひとことメッセージとお写真をご投稿いただきました。

社会情報学 北川一輝 両親に恩返しができる立派な社会人になりたい。		応用メディア情報 信田悟至 お世話になった人々に恩返しできるような猛者になります。		ネットワーク情報システム 松本江里加 6年間の学びを活かし今後も研鑽したいと思います。	
機能有機化学 南 景子 修了まで支えてくださった方々に感謝致します。		機械要素・トライボロジー 千地早紀 大学で築き上げた繋がりは一生ものだと思うので、社会に出ても頑張りたいと思います。		構造工学 近藤 翼 構造研での経験を糧に活躍の場を広げていきたいです。	
噴霧・燃焼工学 味岡将士 たくましい社会人になれるように頑張ります。		流体力学 寺岡孝浩 この学校で学生生活を送れて本当に良かったです。			



■表紙：複合的研究施設建築予定

京田辺校地 恵喜館(理工学部環境システム学科研究棟)北側に2013年10月より建築中。脳科学研究科及び博士課程リーディングプログラムの拠点スペース並びにプロジェクト型研究室等を配置した、全学共用の実験・研究スペースで構成する複合的研究施設で、2014年12月利用開始を目標としています。施設には研究室や実験室のみならず、ラウンジも設置され交流が活発になるような工夫もされる予定です。(写真:京田辺施設課提供)

同志社大学 理工学会・理工学部同窓会ホームページ

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>



同志社大学公式facebook

<https://www.facebook.com/doshisha.university>

同志社大学理工学部同窓会報—DoKoネット19号

2014年3月20日発行 発行者:橋詰 源治 〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学理工学部内
理工学部同窓会事務局 Tel: 0774-65-6219 Fax: 0774-65-6850
印刷:大枝印刷株式会社 Tel: 06-6381-3395 Fax: 06-6318-2000

同志社大学理工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。同窓会事務局までご連絡、ご投稿下さい。なお、Dokoネットの発送につきましては、大口発送元である株式会社エルネットを発送代行として発送させていただきました。